

インドネシアで、「多様性の中の統一」をみてきました

2023年6月1日

栗又 衛

今年の3月に6日間ほどインドネシア（ジャワ島だけです）を訪問しました。ジャカルタ、バンドン、ジョグジャカルタ（ボロブドゥール仏教遺跡がある） だけですが、2億7350万人が1万数千の島々で暮らすインドネシアの多様性に触れる旅でした。個人旅行でしたので、普通の人々と交流することはほとんどありませんでしたから、上っ面だけの紹介になってしまいますが、ご一読下さい。



■写真1

今年は ASEAN の議長国

ジョコ大統領はインドネシアでは初めての軍人出身ではない庶民出身大統領で、2014年に初当選して現在2期目です。昨年はG20の議長国を務め、今年には ASEAN の議長国を担っています。世界最大のイスラム圏でもあるインドネシアは、第1回アジア・アフリカ会議をバンドンで開催して以来、「非同盟・中立」を国是としてきました。ジャワ島の高原都市・バンドンにはその会議場が国の誇りとしてそのまま保存されていました。街を歩き交う人々の多様な生活スタイルから、民主政治が定着しつつあることも感じました。



■写真2

教育熱心——ヒジャブをかぶった女子高生たち

インドネシアの女性たちの多くはヒジャブを着用していますが、ムスリム以外の女性も普通に見かけます。仏教は廃れてしまいましたが、バリ島にはヒンドゥー教文化が残り、オランダ統治の影響でキリスト教信仰も続いています。ジャカルタなどの街中では大学生や高校生をたくさん見かけます。国を挙げて教育に力を入れていることが感じられます。若者の多いこの国の発展が楽しみです。



■写真3

インフラ整備進む——人に優しい鉄道

ジャワ島では鉄道、道路、港、空港などのインフラ整備が進み、ジャカルタには高層ビルが林立しています。ジャカルタとその近郊では、日本の中古電車（地下鉄や私鉄の）が大活躍しています。インドネシア国鉄がジャワ島の鉄道網を維持し、ジャカルタでは地下鉄の建設が進み（日本の援助で）、ジャカルタとバンドンの間で高速鉄道が今年開通する（中国の援助で）予定です。切符の IC カード化も進んでいますが、まだまだ駅員さんや乗務員など鉄道で働く人は日本のように減らされて

はいませんから、安心して利用できます。



■写真4

1年中コメが穫れる——豊かな自然

インドネシアは熱帯にあり、雨も1年中降る地域が多いので、季節を問わずいつでも稲を栽培することができます。二期作はもちろん三期作も可能です。農村風景は日本によく似ていますが、人影がほとんどみられない日本に対して人の姿をよく見かけます。自然豊かな農村の生活がいつまでも続きますように。



■写真5

ほっとする風景——ネコに優しい社会

街を歩いていると、ネコにしょっちゅう出くわします。地域でネコが大切にされているようです。ネコに優しい社会はもちろん人にも優しい社会ですし、環境にも優しい社会そして世界にも優しい国でしょう。